

木場潟に蓄光タイル

小松中央LC50周年で設置

小松中央ライオンズクラブ（LC）の五十周年記念の催しが十七日、小松市の木場潟公園中央園地で開かれた。夜間に園路を照らす蓄光タイルの設置完成式典



①蓄光タイルを掲げながら式典であいさつする池上茂雄会長 ②催しに合わせて設けられたブースで列をつくる参加者 ③遊具を楽しもつと列をつくる親子ら ④いずれも小松市の木場潟公園中央園地で



があり、こまつ子ども食堂などによる出店や、子ども向けの遊具も登場。親子ら約三百人が訪れ、楽しいひとときを過ごした。

蓄光タイルは、中央園地と西園地の園路沿いに約六百個を設置した。昼間の光

を蓄え、夜間に八時間以上光るといふ。生態系に影響が出るとして、街灯を設置できなかった園路は今後、夜間も歩きやすくなる。

式典で同LCの池上茂雄会長（左）は、電気を使わない蓄光タイルは、国連が掲



げる持続可能な開発目標（SDGs）に沿うとして、完成を祝った。取材に、池上会長は「童話ヘンゼルとグレーテルに出てくる光る小石のように、夜になるとほわっときれいな光の線が見える」と話していた。

子ども食堂は、飲食店や福祉施設などと協力して、パエリアやカレー、パンなどの出店を出した。来場者が列を作る人気ぶりだった。子どもたちが楽しめる風船の遊具や、糖尿病予防を啓発する展示もあった。メモリアルステージでは、ファミリーコンサートがあり、小松市の音楽家らが演奏を披露し、来場者が聞き入っていた。

（坂麻有）